

フィリピン チルドレンズ プロジェクト Philippine Children's Project[PCP]



授賞団体紹介

○代表者：森口 郁子 氏

○活動歴：

- ・平成 19(2007)年 ワークキャンプ参加者有志を中心に設立。児童養護施設の子どもたちとの交流と併設の私立小学校でリコーダー指導開始
- ・平成 22(2010)年 大学生を受け入れ開始。現地での授業のデモンストレーションやフィリピンの人々が抱える問題や社会課題をテーマにディスカッションなど派遣前準備、事後研修を始める。
- ・平成 24(2012)年 大学生企画の授業を実施。公立小学校で、ダンス（体育）、理科実験、公衆衛生講習などを行う。
- ・平成 28(2016)年 9年間交流を続けた児童養護施設が閉鎖となり、活動継続が危ぶれたが、フィリピンの小学校や施設からの要望で継続することに。
- ・～現在 毎年、活動報告書やDVDを作成し、報告会等で報告している。

授賞理由

フィリピンの子どもたちを対象に、寄贈を受けたリコーダーを活用した情操教育、公衆衛生講習、文化交流等を行っています。また、大学等のボランティア実習科目にも採用され、参加メンバーは大阪や神戸の特定非営利活動法人（NPO）や小学校で活躍しています。

情操教育で支援するというユニークな活動を行い、その活動経験は学校教育等でも生かされているという点で、平和貢献活動の普及が期待できるものとして高く評価します。

授賞団体のことば

活動のきっかけ

芦屋市国際交流協会のフィリピンでのボランティア事業が終了し、その参加者有志がフィリピンの人々と交流を続けたいという思いからPCPを立ち上げました。日本では小学校で誰もが習い、その後使わなくなってしまうソプラノリコーダーを集めて、教材のないフィリピンで楽器を演奏する音楽の授業をし、情操教育に寄与したいというのが元々の趣旨でした。フィリピンの方々と交流を進める中、私たちは無意識に「持てる者が持たざる者に与える」という心を持っていたことに気づかされ、また先の戦争でフィリピンの方が受けた心の傷や格差社会が、我々と無関係ではないことなど多くのことを考えさせられる機会があったため、活動にもそうしたことを学ぶプログラムを盛り込むようにしました。

目的やこれまでの取り組み

日中は小学校でリコーダーの授業をし、夕方や休日はストリートチルドレンのための児童養護施設で子どもたちと話したり遊んだりしました。2010年から大学生の参加が増え、国際情操教育協力、児童養護施設支援に加え、人材育成も目的の一つとなりました。小学校ではリコーダー授業の他に、学生メンバーが企画したダンスや理科実験などに取り組むとともに、日系企業や一般家庭、第2次世界大戦戦跡、ピナツボ噴火被災地などを訪問しています。

現地活動の前には事前研修を約2か月間行います。教案を考え模擬授業を繰り返すことで、全く経験がない人でも教壇に立って授業をすることができるようになります。また事後研修でも、フィリピンでの体験を踏まえて国際問題、貧困問題、福祉、幸福感などについてディスカッションをしています。活動後、多くの参加者が地域や社会の諸問題の解決に取り組んだり、国際協力活動に進んだりしていくので、大変励みになりました。



公立小学校で公衆衛生・防災授業



職業訓練校のある児童養護施設で

大切にしていることや将来の展望

参加したい人は誰でも受け入れ対等な立場で活動する。そしてフィリピンの人とも協働し、お互いが助け合い学び合うというのが発足当初からのスタンスです。組織を持たず会計もシンプルにして、年に1度必ずフィリピンへ行くというミッションの実現だけを最優先に1年1年を積み重ねてきました。長年支えてくれたフィリピンのコーディネーターが他国へ移住したり、交流を続けてきた児童養護施設が閉鎖されたりと、継続を危ぶまれることも多々ありましたが、その都度いろいろな方が手を差し伸べてくださったお陰で、続けてこれたんだと改めて感じています。今後も、フィリピンの小学校の先生方や児童養護施設のスタッフの方々と緊密に連携をとりながら、公衆衛生、防災減災などの授業にも取り組むとともに、就学支援プログラムを創設したいと考えています。

授賞の感想や授賞団体にとっての賞の意味

この度は、私たちのような市民有志による地道な国際協力に対し、自由都市・堺 平和貢献賞という大きなご評価をいただいたことを大変光栄に思います。ご推挙くださった方々、堺市の皆様に心より感謝申し上げます。今回の受賞は、私たちにこれまでの活動を振り返り、今後の取り組みについて考える好機を与えていただきました。

これからも互いを認め合い自分のできることを積み重ねることが平和の第一歩であることを心に刻み、国境を越えてより多くの人々とその思いを共有できるような活動をしていきたいと思っています。この度は本当にありがとうございました

堺市の思い

文化、年齢、性別、国籍、能力の如何の有無等に区別されずに暮らすことができるユニバーサル社会の視点で現地の方々に寄り添った活動を続けている団体です。

活動には本市在学の学生も参加し、若い参加者も多くを受け入れている団体の取組からは学ぶことが多くあります。

